

重要 文化的景観選定に向けての取り組み

甲州市と山梨大学では、「勝沼のブドウ畑とワイナリー群の文化的景観」を重要文化的景観として国に選定されるための取り組みを共同研究として行っています。「文化的景観」とは、地域のひとがその土地特有の自然と関わり、生活や生業を営むなかで形成された景観です。

今回は、これまでの調査で明らかとなった勝沼らしさを地域で共有し、未来に受け継いでいくための取り組みを紹介します♪

小学生向けワークショップ開催!



5月・6月に勝沼地区の小学校4校で、地域学習の一環として、小学3年生が自分たちの地域を探検するワークショップを開催しました!山梨大生と市教育委員会の説明に耳を傾けながら約3kmの行程を歩きました。探検の途中で、小学生が自分が気になったものや風景をカメラで撮影し、「勝沼にしかないもの」や「勝沼らしい景色」を発見しました。



勝沼の時代を写す。～勝沼地域の魅力を全方位からみつめるパネル展～

小学生が地域探検で撮影した写真などを、宮光園、ぶどうの国文化館、勝沼ぶどうの丘、ぶどうまつり、甲州市役所本庁舎にて展示しました。また、4月から募集していた勝沼で撮影された古写真や文化財課が所有している勝沼の古写真も同時に展示しました。



パネル展の様子 (近代産業遺産 宮光園 白蔵)



ぶどうまつり 特集



文化的景観調査の一環として、昨年に引き続き鳥居焼の調査を行いました。今年は、祝地区の聖火リレーに密着し、勝沼中学校の生徒に並走しながら、走る様子をカメラで記録したり、聞き取り調査などを行いました。

地元の中学生在が地域を走り、鳥居平に火を灯す行事は、勝沼の通過儀礼といえるもので、まさに勝沼の文化的景観だと考えられます。ランナーとなる中学生だけでなく、沿道で暖かく応援する地域の皆さんによってこの「勝沼らしさ」は支えられています。

今回、中学生にインタビューを試みたところ口をそろえて「火が熱い」と言っていました。勝沼地域の皆さん、そうした記憶があるのではないのでしょうか？

★余談

おまつりメイン会場では文化的景観の解説や地域探検ワークショップに関するパネルを設置し、たくさんの方に見ていただきました。



上松屋さん(萩原ご夫妻)に インタビューをしました！

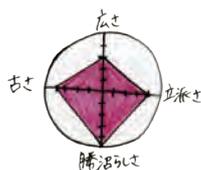
萩原茂俊さん(写真右)と絹恵さん(写真左)

右の写真には、萩原茂俊さんのご両親である茂富さんと采女さんが主屋の縁側でブドウの籠づめをしている様子が写っています。昭和17年(1942)に立川市から来園した観光客によって撮影されました。「当時小学生だった自分にとっては当たり前風景だったが、観光客にとっては珍しかったようでよく写真を撮られていた。」と茂俊さん。

写真右側に写るブドウ盆栽は茂富さんの手作りです。今ではよく目にするブドウ盆栽も、当時はとても珍しかったそうです！



今日の勝沼ワンポイント



collection2

近代産業遺産 宮光園

宮崎光太郎が明治時代に始めた葡萄酒醸造所と観光ブドウ園の跡だよ。ワイン産業のはじまりを伝えるもので、市で保存修理を行い、現在は公開施設としてワインの歴史を紹介しているよ。

編集後記

先日のぶどうまつりの調査で聖火ランナーに密着をしたらひどい筋肉痛になり、これを書いている今もちょっと苦しんでいます。中学生の若さには敵わないと悟る秋でした。文化的景観を受け継ぐには若い世代の存在が欠かせないと感じます。(さつまいものズッキー)

次回予告

『かつぬま旬報 vol.3 Winter2019』は2月1日発行予定です。お楽しみに！！

平成30年(2018)11月1日 発行
編集：甲州市教育委員会文化財課
山梨大学観光まちづくり研究室
発行：甲州市教育委員会文化財課
山梨県甲州市塩山上於曾 1085 番地 1
TEL：0553-32-5076
デザイン：岩田美耶・高橋瑞季(山梨大学)

詳しくは **勝沼 文化的景観**